

みんなの出前講座

町が重点的に取り組む施策などに関するテーマについて、町民の皆さんの理解を深めていただくことを目的に「みんなの出前講座」を実施しています。学校、グループ、地域、地区公民館活動の中で学習会をしてみませんか。お気軽にご相談ください。

総務課

- ▼選挙制度について
- ▼情報公開制度について
- ▼町の財政状況について

管財課

- ▼公有財産の貸付・処分について

企画課

- ▼バイオマス産業都市構想
- ▼南三陸町第2次総合計画
- ▼各種統計から見た南三陸町
- ▼移住者との地域づくり
- ▼空き家の活用について
- ▼人が減ると町はどうなる？

保健福祉課

- ▼福祉サービスについて
- ▼高齢者在宅福祉サービスと福祉施設について
- ▼介護保険制度について
- ▼障害者総合支援制度について
- ▼子ども・子育て支援新制度について
- ▼子育て支援センターについて
- ▼生活習慣病や病気の予防について（脳卒中、心臓病、がん、高血圧、高脂血症、糖尿病など）
- ▼健康づくりについて（食事、運動、休養の話など）
- ▼栄養教室について（バランス食、肥満予防など）

上下水道事業所

- ▼下水道について
- ▼みんなの水道（節水のすすめ、凍結防止、災害時の水対策）

危機管理課

- ▼わが町の防災について
- ▼自主防災組織について

町民税務課

- ▼国民年金の制度
- ▼国民健康保険の制度
- ▼町県民税のしくみ
- ▼固定資産税のしくみ

農林水産課

- ▼町の農業・林業について
- ▼有害鳥獣対策制度について
- ▼FSC・ASC認証について
- ▼町の水産業について
- ▼サケの生態について
- ▼ラムサール条約について

【農業委員会】

- ▼農地の転用と権利移動
- ▼農業者年金制度について

☎ 生涯学習課 ☎46-2639

南三陸なうな人

「楽しむ」ことが

地域のためになる。

【小出 悟さん】



「南三陸の魅力をもっと知っていきたくて、もっと町を好きになっていこうと思う」と話す小出悟さん

Ｕターナー者も多く活躍する南三陸町。２０１３年４月から水産加工会社で働く新潟県出身の小出悟さんも移住を決断した一人だ。『当時は、『会社のために』『町のために』という使命感が大きなモチベーションでした』と話す小出さん。充実した生活を送っていたが、一家と職場の往復。町のイベントなどに顔を出すことも少なかった』と話す。

転機となったのは、一昨年に気仙沼を訪れたこと。旅行者、移住者、地元住民が集うゲストハウスにて同年代の仲間に出会い意気投合。今では運営を手伝いながら、平日・南三陸、週末・気仙沼という二拠点生活を送っている。

『気仙沼に行くことで南三陸のことを深く知っていった。純粋に町での生活を楽しもうとさまざまな場所に顔を出すことで自然と知り合いも増加。イベントの実行委員会などにも関わり、『自分のために』という想いが、『町のため』につながっていた。会社、そして地域へと活躍の場を広げたことで多忙な一年だったがこれまで以上の充実感を味わえた。

『三陸沿岸全体で交流を生み出したい』と意気込む小出さん。その挑戦がこの地域に新たな「楽しみ」をもたらしてくれることだろう。

南三陸なう

検索

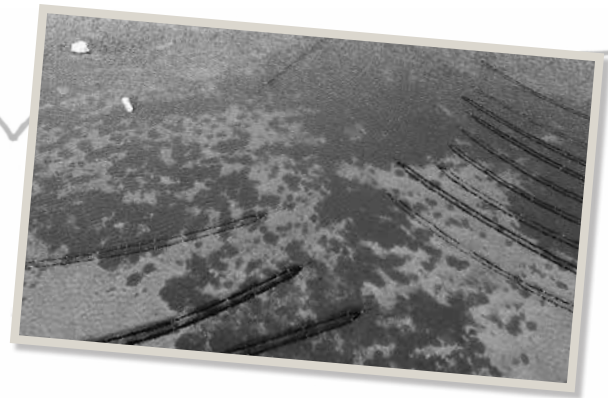
悟さんをもっと詳しく知りたい人は、南三陸公式ブログ 南三陸なうをご覧ください。

ネイチャーセンター準備室だより

「海の草原：アマモ場」

この冬、湾内のアマモ場の調査を行いました。アマモ類は、海草と呼ばれる海の植物で、砂地に根をはり、茎と葉を伸ばして海の草原（アマモ場）をつくります。写真は、波伝谷沖でドローンを使って上空から撮影した海底の様子です。水面にはワカメの養殖筏が伸び、そのロープから若いワカメを見ることが出来ます。海底は砂地で、白く見えるのは砂の部分、まだら状に黒っぽく見える部分が全てアマモ場です。

震災後、津波によって海底の砂が流され、アマモ場が大幅に減少したエリアがあります。波伝谷沖もその一つですが、こうして見事にアマモ場が



復活している様子が確認できました。自然の回復力の強さを感じずにはいられません。先月号で紹介した海鳥のコクガンは、こうした海草の葉やアオサなどの海藻を主に食べます。このときも、数羽のコクガンがすぐ近くで浮いているアマモの葉をせっせとついばんでいました。アマモ場の回復を誰よりも喜んでいるのは、コクガンたちかもしれません。

☎ 農林水産課 ネイチャーセンター準備室 ☎25-9703